

国実通信

192号

企画 国実女子部

株式会社



佐久市中込3611-170
TEL.0267-64-1822

国実 検索

第12回 『国実講演会』 のお知らせ

「講師紹介」
長野県生まれ
文筆家
大量生産 大量消費の社
会から零れ落ちるもの
コト・価値観・をテーマ
に各誌紙に執筆
著書に「東京の台所」
「台所が教えてくれた事」
他多数
詳しいお知らせは3月26
号でお知らせします。



工藤 工藤

皆様に好評を得ておりました当社主催の講演会過去には養老孟司さん、落合恵子さん、上野千鶴子さんをはじめ著名な方をお迎えしその回数も11回を数えたところでコロナ禍により中断。再開しようにもなかなか私のスイッチも入らず、ズクも出ず逡巡しておりましたが、ここに至ってようやく社長が重い腰を上げ、固く結んだ財布の紐をほどき再開の運びとなりました。

演題 「便利の向こう側」
講師 大平一枝氏
会場 佐久ホテル
開催日 4月16日

国宝

第三章 沈黙の地図

山の冬は静かに国の現実を映していた。朝の空気は薄く、白い息がすぐに溶けて消える。

京子の集落を囲む山々はどこか疲れたように肩を落とし、かつて子どもたちの声が響いた谷は今鳥の羽音さえ遠慮がちだった。

この国を覆う重い空気は京子の暮らしただけを狙って落ちてきたわけではない。

人口減少と高齢化はまるで冬の霜のように、気づけば国土の隅々にまで広がっていた。

国は対策として多額の予算をつけ、自治体はその予算を求めて動き始めた。

その結果、地方同士が人を奪い合うという奇妙で、どこか哀しい人口争奪戦が始まった。

国の描く未来図は、都会の会議室で引かれた線のよきに、山の暮らした速度とは噛み合わなかった。

コンパクトシティ構想――街に人を集め、効率よく行政サービスを提供するという考え方は、経済の理屈としては正しいのかもしれない。

だが、山の朝の静けさを知る者には、その未来図はどこか薄っぺらに見えた。

雪の重さを知らず
老いた足の遅さを知らず
茶葉子を囲む時間の価値を知らず。

ただ「効率」という名の線が地図の上を走っていく。
人を集めることなどもはやできない。

動ける者はすでに街へ移り動けない者は山に残り、残された土地は静かに老いて発電パネルに覆われていく。
国の光は遠く影だけが山に伸びていた。

京子は夫の移住の決断を前にして、自分たちの選択が、個人の問題ではなく、この国の構造そのものに押し流されているのだと薄々感じ始めていた。

ある夕暮れ、京子は縁側に座り山の稜線が赤く染まり、そして鈍色に変わっていく様をじっと見つめた。

風が吹くたび枯れたススキがざわりと揺れ、その



断熱を施した空間 幅5尺の仏壇が入ります

最終4章 【慈愛の花】は
3月26日

伝統工芸見学会のお知らせ

受け継がれる漆の技と心に触れる、漆工房見学会を開催します

静かな手仕事に宿る伝統の重みと職人の姿勢と技
どうぞご自身で確かめ感じていただけます



見学会所 佐久穂町町内
(伴野漆工藝製作所)
開催日 3月26日
時間 午後1時より
募集人員 5名
現地集合
(お申込み時に説明)
参加費用 500円
お申込み
0267-64-1822
佐々木まで

伴野漆工藝製作所 代表
伴野 崇

第2回 大人のための社会科 開催のお知らせ

前回は家庭ごみの焼却施設を見学し、家庭ごみが出た汚水がどのように浄水のように処理され、リサイクルされていくか、水環境の大切さを学びました。

今回は佐久下水処理場。埼玉で起きた下水管陥没事故は記憶に新しい所です。故に記憶に新しい所です。いかに施設の保全がなされ

日時 3月15日 AM10時
現地集合

見学会所 佐久下水処理場
募集人員 10名
参加費用 1000円
昼食付 カフェオール
サンドイッチ

見学は約80分
その後当社事務所にて昼食・解散となります。
定員になり次第締め切らせていただきます。



今月のプレゼント

「コーヒーサーバー&ティーウォーマーセット」
今、静かなブームのハンドドリップコーヒー。豆を選び、お湯を注ぐひとときは、忙しい日常の中の小さな贅沢です。



このセットがあれば、ドリップする楽しみも、温かいまま味わう幸せも。キャンドルの灯りが揺れるティーウォーマーは、見ていだけで心が和みます。週末の朝、ゆっくりと一杯。あなたの「好きな時間」を応援します。

抽選で3名様にプレゼント。
ハガキに住所・氏名・電話番号をご記入の上、お申し込みください。
〒385-0051
佐久市中込3611-170
国実プレゼント係まで